

西ノ辻遺跡第35次発掘調査報告

1993. 9

財団法人 東大阪市文化財協会

はしがき

大阪・奈良間の自動車交通量は、周辺部の地域開発に伴って増加の一途をたどっています。そのための交通対策として、第二阪奈有料道路の建設が計画されました。その建設予定地が神並遺跡、西ノ辻遺跡、鬼虎川遺跡を横断するため、昭和63年度以降本協会では発掘調査を実施してまいりました。

西ノ辻遺跡は、弥生時代後期の標識遺跡として学界にも古くより知られておりまます。また、近鉄東大阪線建設工事に伴う発掘調査で縄文時代～中世にかけての造構・遺物が数多く発見されております。縄文土器、弥生時代の方形周溝墓群、弥生時代の谷筋、古墳時代の貯水施設、中世の集落跡などがあります。今回の調査においては、本書に記すとおり、石器や中世の井戸などを検出し、貴重な知見を得ております。

本書が、歴史研究のみならず、地域の文化財への関心をより深めていただきための資料となれば幸いです。今後とも埋蔵文化財の保存・調査・研究に努力していく所存ですので、市民の方々の理解と協力をお願いする次第であります。

最後になりましたが、発掘調査及び遺物整理にあたり、ご尽力いただいた大阪府道路公社をはじめとする関係諸機関、ご指導・ご協力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。

平成5年9月

財団法人 東大阪市文化財協会

理事長 新庄 孝臣

例　　言

1. 本書は、大阪府道路公社が予定している第二阪奈有料道路建設に伴って実施した西ノ辻遺跡第35次発掘調査の報告書である。
2. 現地調査及び遺物整理は、財団法人東大阪市文化財協会が大阪府道路公社の委託を受けて実施した。現地調査は平成4年6月1日～平成4年11月10日まで、遺物整理を平成4年11月11日～平成5年3月31日まで実施した。
3. 調査・整理は次の事務局体制により進めた。（平成5年7月30日現在）

理事長 新庄孝臣（東大阪市教育委員会教育長）
常務理事 西脇 實
事務局長 異 信二（東大阪市教育委員会社会教育部次長・文化財課課長）
調査部長 原田 修（東大阪市教育委員会文化財課主幹）
調査副部長 福永信雄（東大阪市教育委員会文化財課主任）
調査副部長 松田順一郎
調査部員 上野節子
庶務部長 吉川正光（東大阪市教育委員会文化財課主幹）
庶務部員 大林 亨 朝田直美 村田周亮
調査担当 才原金弘（東大阪市教育委員会文化財課主任）
藤城 泰
調査補助 福林利彦 中村尚弘 松浦徳彦 野田好夫 西川福美 栗田一己 桐野優子
吉田智恵

4. 本書の執筆と編集は藤城がおこなった。
5. 図版に収めた遺構写真は才原と藤城が撮影し、遺物写真はスタジオG.F.プロに委託した。
6. 調査における土色名は、農林省農林水産技術会議事務所監修・財団法人日本色彩研究所監修の『新版標準土色帖』に準じた。
7. 遺構実測は建設省告示による国土座標第VI系を使用した。水準高はT.P.値を用いた。

本文目次

はしがき

例言

I. 調査に至る経過	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の概要	5
1. 調査の方法	5
2. 層位	5
3. 遺構	8
4. 出土遺物	10
IV. まとめ	16

挿図目次

第1図 遺跡周辺図	3
第2図 調査位置図	4
第3図 調査区平面図	6
第4図 北壁・東壁断面実測図	7
第5図 井戸1平面位置図	8
第6図 井戸1実測図	9
第7図 土塙1～3平面位置図	9
第8図 土塙1～3実測図	9
第9図 井戸1・搅乱出土土器実測図	11
第10図 井戸1出土木製品実測図	12
第11図 井戸1出土木製品実測図	13
第12図 井戸1出土金属製品実測図	14
第13図 第10層出土石製品実測図	15

図版目次

- 図版1 遺構 1. A地区全景（東から）
2. B地区全景（東から）
- 図版2 遺構 1. A地区東壁断面
2. B地区東壁断面
- 図版3 遺構 1. 井戸1（東から）
2. 井戸1内木製品出土状況
- 図版4 遺構 1. 井戸1内土器（瓦器椀）出土状況
2. 井戸1内金属製品（小刀）出土状況
- 図版5 遺構 1. 井戸1完掘状況
2. 第10層石製品（搔器）出土状況
- 図版6 遺構 1. 土塙1～3（東から）
2. 土塙2・3（北から）
- 図版7 遺構 1. 土塙1完掘状況
2. 土塙1断面
- 図版8 遺構 1. 土塙2完掘状況
2. 土塙2断面
- 図版9 遺構 1. 土塙3完掘状況
2. 土塙3断面
- 図版10 遺物 井戸1出土土器 瓦器椀、土師器小皿
- 図版11 遺物 1. 井戸1出土土器 瓦器椀・羽釜（表）
2. 井戸1出土土器 瓦器椀・羽釜（裏）
- 図版12 遺物 1. 井戸1出土土器 須恵器甕、土師器小皿 搾乱出土土器 白磁椀
2. 第10層出土石製品 搢器 井戸1出土動物遺体
- 図版13 遺物 井戸1出土木製品
- 図版14 遺物 井戸1出土木製品、金属製品 小刀

I. 調査に至る経過

近年自動車交通量の増加に伴い、大阪・奈良間での早急な道路網の整備が必要となった。そのため大阪府道路公社と奈良県道路公社は共同で第二阪奈有料道路の建設事業をおこなうこととなった。この道路は一般国道308号線のバイパスとして、大阪都心部、東大阪市と奈良県北部地域を阪奈トンネルで結ぶと共に、阪神高速道路大阪東大阪線及び近畿自動車道天理吹田線と連絡することで広域的な道路網を形成するものである。

第二阪奈有料道路の起点と終点は、東大阪市西石切町（一般国道170号線・大阪外環状線）と奈良市宝来町（奈良生駒線・阪奈道路）である。東大阪市域の道路建設予定地内には鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡・神並遺跡が存在する。そのため東大阪市教育委員会文化財課により工事に先だって発掘調査が必要との見解が出された。大阪府道路公社と東大阪市教育委員会文化財課が協議した結果、発掘調査を実施することになった。昭和63年度から平成4年度までの5年間にわたり、第二阪奈有料道路建設予定地内の埋蔵文化財調査を実施した。実施年度と調査次数は、昭和63年度は神並遺跡第13次、平成元年度は西ノ辻遺跡第27次、平成元～2年度は鬼虎川遺跡第32次、平成2年度は西ノ辻遺跡第30次、平成2～3年度は西ノ辻遺跡第32次、平成2～4年度は神並遺跡第14次、平成3～4年度は鬼虎川遺跡第33次、平成4年度は西ノ辻遺跡第33次、第35次調査である。これらの発掘調査により、数多くの新たな知見が得られた。

西ノ辻遺跡は縄文時代～近世に至る複合遺跡である。当遺跡の発見は昭和16年に、当時の八尾中学校の生徒が東高野街道脇で弥生土器片を採集したことによる。その後、昭和16～17年にかけて小林行雄氏により発掘調査がおこなわれた。これにより、調査地点（A～N地点）ごとに弥生時代中期～後期土器の型式が設定された。そのうち特に西ノ辻遺跡I地点式は後期初頭に位置づけられ、標識遺跡として著名な遺跡となった。昭和55年から昭和61年には近鉄東大阪線建設工事及び国道308号線延伸に伴い、大阪府教育委員会、東大阪市教育委員会、財団法人東大阪市文化財協会により大規模な発掘調査がおこなわれた。当時の調査では、縄文時代後期～近世までの各時期の遺物・遺構が見つかった。時代ごとにみると、縄文時代の遺物としては後期の土器が出土している。弥生時代の遺構は方形周溝墓、甕棺墓、谷筋などがある。方形周溝墓に関しては、当時の調査では主体部がみつかなかったため確証は得られず、方形周溝墓状の遺構とされていた。しかし、その後の第26次調査で主体部を検出し、方形周溝墓であることが確認されている。古墳時代の遺構は谷筋に隣接した木樋と人頭大の石を積み上げた石組遺構などがある。中世の遺構は掘立柱建物、井戸、木棺墓がある。第二阪奈有料道路建設工事に伴う発掘調査地は、近鉄東大阪線に隣接している。

今回の西ノ辻遺跡第35次調査地は、国道308号線（西石切町）と市道石切西17号線（布市植附線）が交差する地点である。調査地は現況が道路下であるため、西側へ道路を移設しての調査となつた。発掘調査は財団法人東大阪市文化財協会が委託を受けおこなつた。第35次調査地の面積は413.5m²であり、平成4年6月1日～11月10日まで現場作業を実施した。

II. 位置と環境

西ノ辻遺跡は、生駒山の西麓、標高7~20mの扇状地上に立地する。行政区画では東大阪市東山町、弥生町、西石切町三丁目にかけて所在する。

遺跡の現状は住宅、商店、工場がほとんどであるが、一部には田畠もみられる。

昭和55年に始まる近鉄東大阪線の建設工事に伴う発掘調査で、前述のとおり西ノ辻遺跡の知見は深まった。新鉄道の開通により、さらに新石切駅周辺の土地開発が盛んになると、それに伴い埋蔵文化財調査もおこなわれている。株式会社中野興産ビル建築工事、住友銀行西石切支店建築工事に伴う発掘調査を平成元~2年にかけて実施した。調査では弥生時代、古墳時代、平安~室町時代の遺構を検出した。弥生時代の遺構は中期の方形周溝墓2基である。西ノ辻遺跡では第7次調査(7基)、第26次調査(2基)と合わせ計11基の方形周溝墓が確認されたことになる。古墳時代の遺構は溝と土塙である。平安~室町時代の遺構は柱穴、井戸、土塙、溝、土塙墓などがある。粘土採掘坑と考えられる方形の土塙が見つかっている。土塙墓からは、人骨の一部と供獻土器と考えられる白磁碗が出土した。時期は13世紀である。

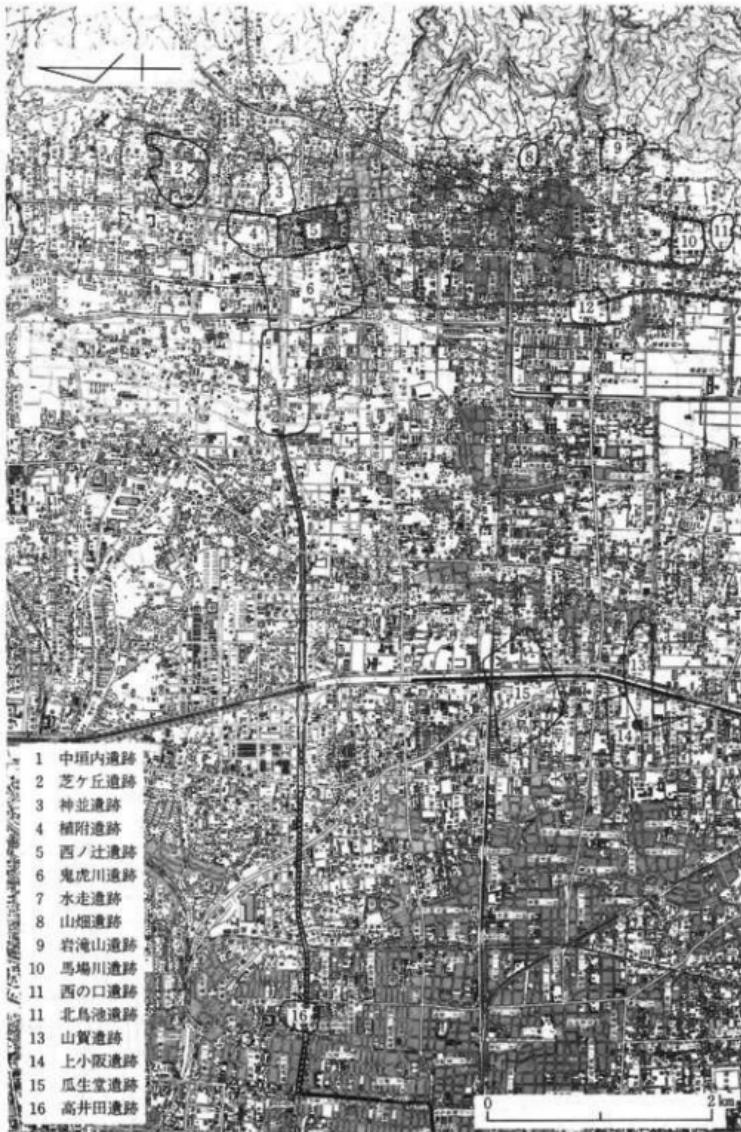
西ノ辻遺跡の周辺、生駒山西麓には数多くの遺跡が知られている。旧石器時代の遺跡は草香山・芝坊主山・正興寺山遺跡がある。いずれも標高100m前後の地点で遺物が採集されているのみで、詳細は不明である。また、鬼虎川遺跡の発掘調査では縄文時代前期の海岸線(海食崖)が検出され、海底面直上の円礫を多量に含む堆積層内からナイフ形石器や翼状剣片が出土している。これは縄文海進時に旧石器時代の遺物包含層が侵食を受けたためと考えられる。出土した石器はほとんど風化しておらず、近辺に生活の場があった可能性が高い。

縄文時代の遺跡は、扇状地上に立地するものとして早期の神並遺跡、前~中期の鬼虎川遺跡、後期の縄手遺跡、晚期前半の馬場川遺跡、日下遺跡、晚期後半の鬼塚遺跡などがある。晚期後半~弥生前期の宮ノ下遺跡は平野部に立地する。

弥生時代の遺跡は、前期に出現する鬼虎川・瓜生堂・山賀遺跡などの拠点集落がある。鬼虎川遺跡の発掘調査では環濠があることが確認されている。また、その一部では極めて良好な遺存状況の木質遺物が大量に出土している。西ノ辻遺跡では、集落の始まる時期と隣接する鬼虎川遺跡の解体の時期の関わりが問題点となっている。

古墳時代の遺跡は、芝ヶ丘・神並・鬼塚遺跡などがある。また、生駒山西麓の各尾根筋には数多くの中期の古墳、後期の群集墳が築造されている。中期の古墳には、塚山・えの木塚・大賀世古墳などがある。群集墳には、神並・みかん山・出雲井・客坊山・山畠・花草山古墳群などがある。

奈良時代以降には神並・水走遺跡などの集落跡がある。水走遺跡では、奈良~平安時代の小形の甕・瓶・壺のセットや人形代などが出土している。これらは祭祀関連の遺物と言われている。そのため、集落の祭祀場であった可能性が指摘されている。



第1図 遺跡周辺図



第2図 調査位置図

III. 調査の概要

1. 調査の方法

調査は盛土約1mを機械掘削し、下層約1mを人力掘削で精査した。地区割は建設省告示による第VI座標系を利用した。調査区の平面形は、第3図に示すとおり、南北約36m、東西約15mのL字形を呈する。便宜的に、北側の南北に長い部分をA地区、南側の東西に長い部分をB地区と呼ぶ。

2. 層位（第4図）

断面実測は調査区のA地区北壁・東壁、B地区北壁・東壁でおこなった。なお、17～25層はA地区北壁のみの立ち割により確認した。以下確認した土層を記す。

盛 土 層厚1.0～2.0m。

第1層 暗赤褐色（5 YR 2/4）細粒砂～粗粒砂層。少量の細礫が混じる。層厚10～42cm。

A地区北壁では削平を受ける。第1遺構面と考えられる。

第2層 褐色（7.5 Y R 4/4）細粒砂～中粒砂層。層厚1～20cm。A地区北壁では削平を受け
る。一部欠層となる。

第3層 暗褐色（10 Y R 3/4）細粒砂～極粗粒砂層。層厚2～30cm。A地区北壁で確認した。
A地区東壁で欠層となる。

第4層 黒褐色（2.5 Y 3/2）極粗粒砂～細礫層。層厚2～12cm。A地区東壁のみで確認した。

第5層 暗褐色（10 Y R 3/4）シルト～中粒砂層。層厚2～5cm。A地区北壁のみで確認し
た。

第6層 暗褐色（10 Y R 2/3）シルト層。細礫が混じる。層厚4～22cm。一部欠層となる。

第7層 オリーブ褐色（2.5 Y 4/3）中粒砂～細礫層。層厚12～56cm。

第8層 オリーブ褐色（2.5 Y 4/4）中粒砂～粗粒砂層。層厚2～30cm。B地区で確認した。
A地区東壁で欠層となる。

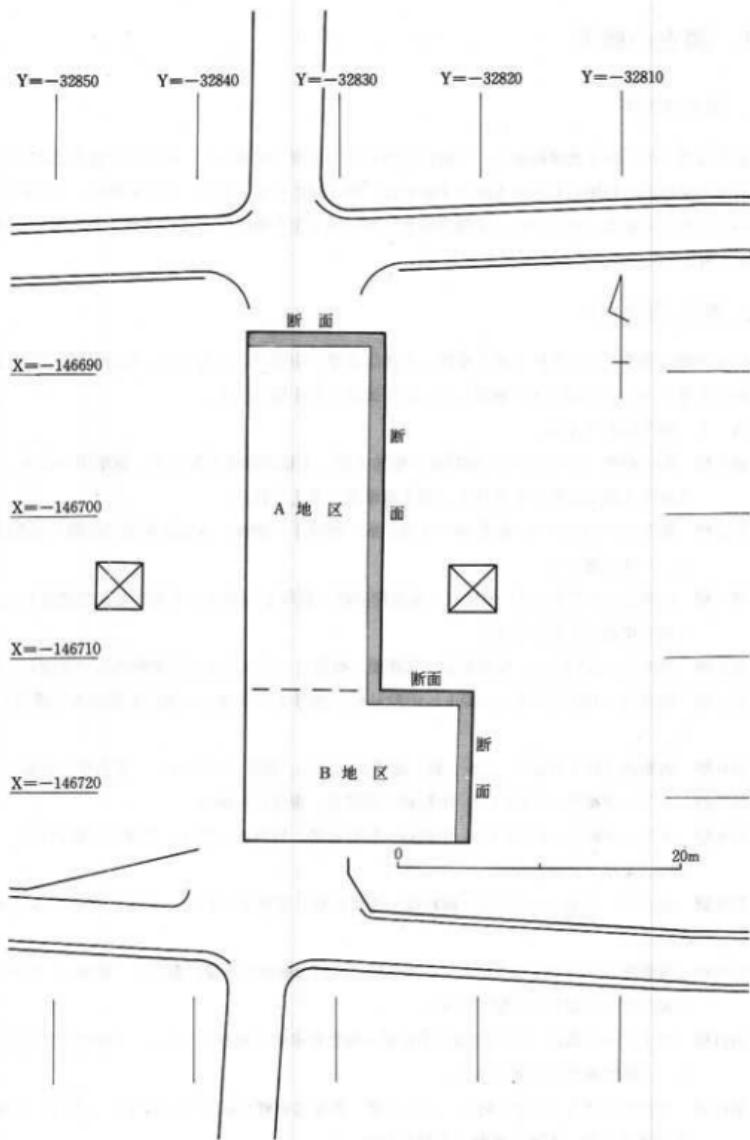
第9層 灰オリーブ色（5 Y 5/3）細粒砂～中粒砂層。層厚1～10cm。A地区東壁のみで確
認した。

第10層 黒褐色（7.5 Y R 2/2）粘土～シルト層。白色の細礫が多量に混じる。層厚8～24cm。
石製品を含む遺物包含層である。

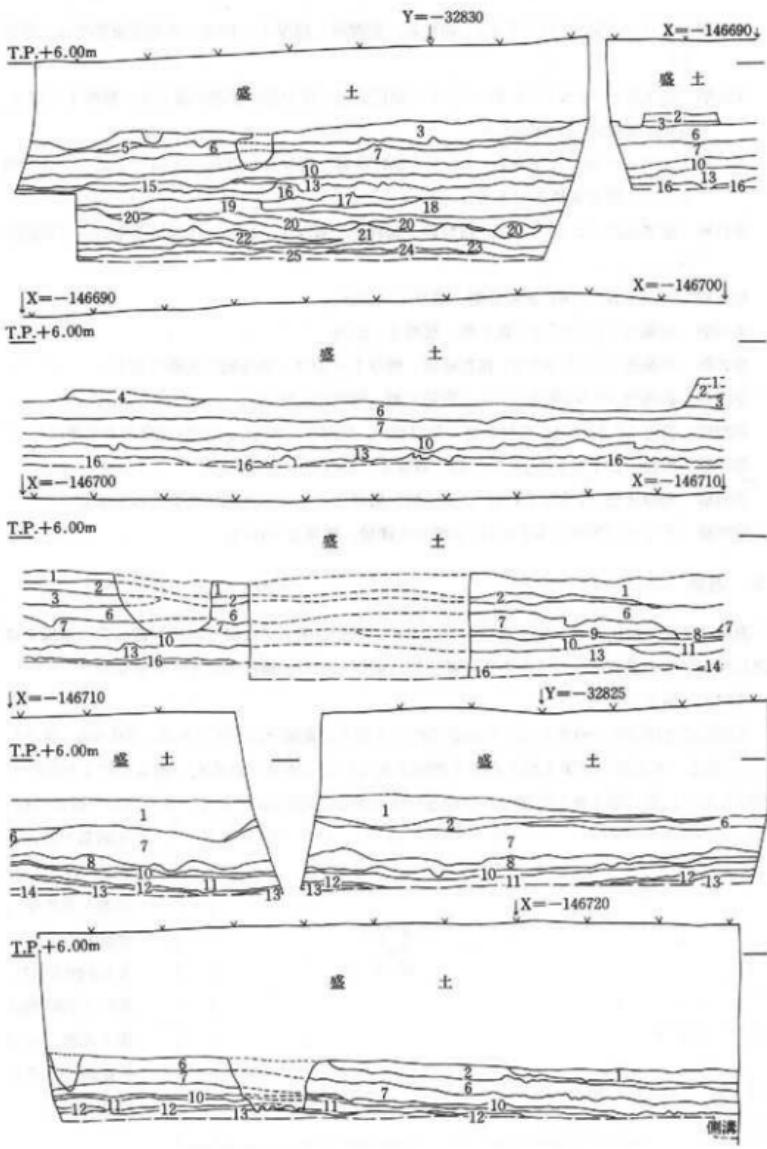
第11層 暗オリーブ褐色（2.5 Y 3/3）中粒砂～極粗粒砂層。層厚2～26cm。B地区で確認し
た。A地区東壁で欠層となる。

第12層 黒褐色（10 Y R 2/2）粘土～シルト層。多量の細礫が混じる。層厚2～6cm。B地
区で確認した。A地区東壁で欠層となる。

第13層 オリーブ黒色（5 Y 3/2）粘土～シルト層。多量の細礫が混じる。層厚2～30cm。



第3図 調査区平面図



第4図 北壁・東壁断面実測図 (1/80)

第14層 オリーブ黒色（7.5Y3/2）粗粒砂～細礫層。層厚1～10cm。A地区東壁のみで確認した。

第15層 暗赤黄色（2.5YR4/2）シルト～細粒砂層。極少量の細礫が混じる。層厚1～12cm。A地区北壁のみで確認した。

第16層 オリーブ色（5Y5/4）シルト～細粒砂層。層厚8～22cm。上面で土塙1～3を検出した。第2遭構面である。

第17層 暗赤褐色（2.5YR3/3）粗粒砂～細礫層。層厚1～20cm。A地区北壁のみで確認した。

第18層 黄色（5Y7/6）細粒砂層。層厚1～28cm。

第19層 黄褐色（2.5Y5/4）粘土層。層厚4～24cm。

第20層 黑褐色（7.5YR3/2）粗粒砂層。層厚1～20cm。部分的に欠層となる。

第21層 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土層。層厚12～56cm。

第22層 黒色（7.5Y2/1）粗粒砂層。第21層内。層厚1～24cm。A地区北壁のみで確認した。

第23層 黒色（10YR1.7/1）粘土層。層厚5～20cm。

第24層 暗緑灰色（7.5GY4/1）シルト層。層厚1～6cm。A地区北壁のみで確認した。

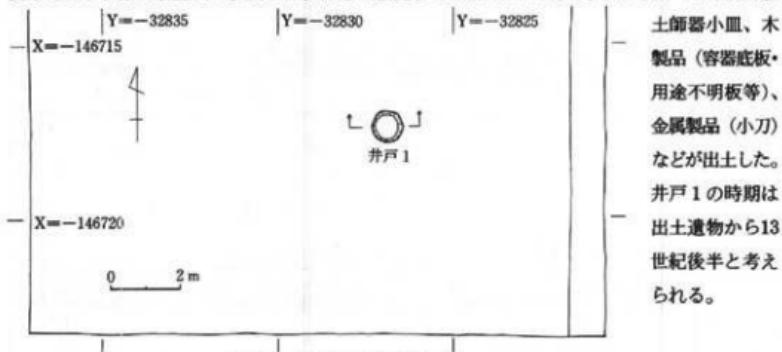
第25層 オリーブ黒色（5Y3/1）小礫～中礫層。層厚2～10cm。

3. 誓權

遺構は2面で検出した。第1遺構面では中世、第2遺構面では縄文時代前期以前の遺構を確認した。中世の遺構は井戸1がある。縄文時代前期以前の遺構は土塙1~3がある。

井戸1（第5・6図）

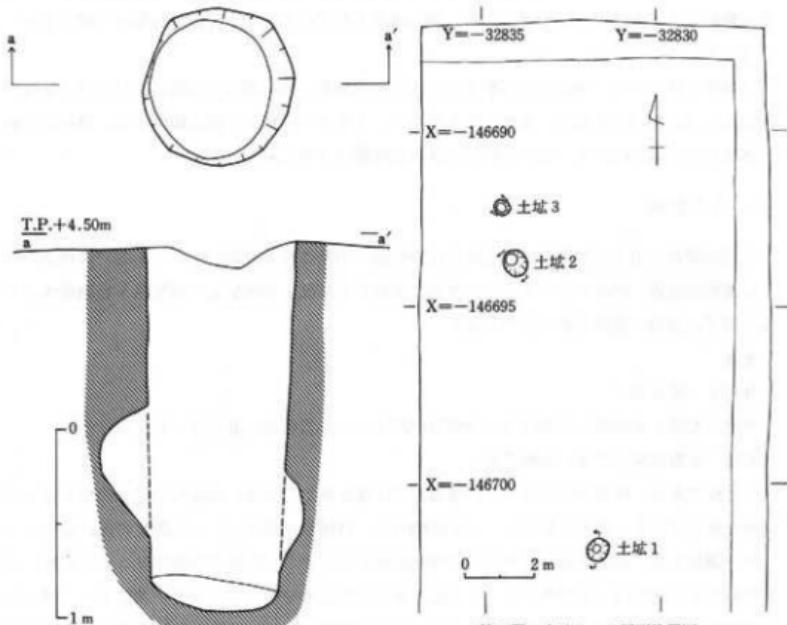
B地区のはば中央で検出した。平面形が円形を呈する素掘りの井戸である。径0.8m、深さ1.9mを測る。本来ならば第1層上面から掘削されていたと考えられるが、擾乱等により削平を受けており、第11層上面で検出した。深さを復元すると約2.5mである。井戸内からは瓦器碗、



第5圖 井戸1平面位置図

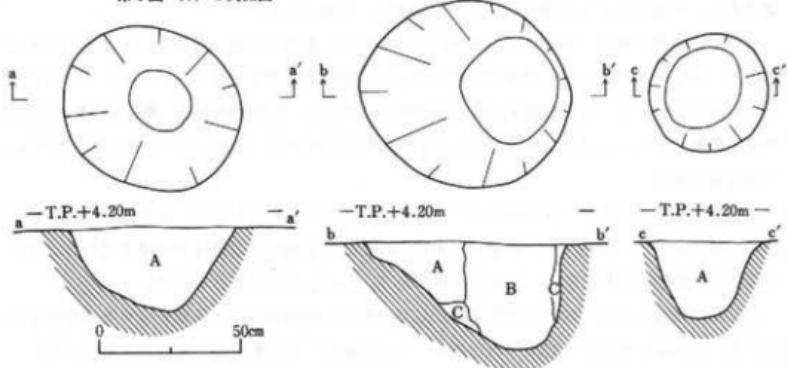
土塙 1 (第 7・8 図)

A 地区で検出した。平面形が円形を呈する土塙である。断面形は緩い半円形である。径 0.6 m、深さ 0.3m を測る。土塙内の A 層は埋土であり、土塙 2 の C 層に類似する。第 16 層上面で検出した。遺物は出土していないので、詳細な時期は不明である。



第 6 図 井戸 1 実測図

第 7 図 土塙 1～3 平面位置図



第 8 図 土塙 1～3 実測図

土塙 2 (第7・8図)

A地区で検出した。平面形が円形を呈する土塙である。断面形は底面が北側によった掘り鉢状である。径0.7m、深さ0.4mを測る。土塙内のA～C層は埋土であるが、B層に関しては再掘削時の埋土の可能性がある。また、B層は土塙3のA層、C層は土塙1のA層の土質にそれぞれ類似する。第16層上面で検出した。遺物は出土していないので詳細な時期は不明である。

土塙 3 (第7・8図)

A地区で検出した。平面形が円形を呈する土塙である。断面形は上の開いたU字形である。径0.4m、深さ0.3mを測る。A層は埋土であり、土塙2のB層の土質に類似する。第16層上面で検出した。遺物は出土していないので詳細な時期は不明である。

4. 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は縄文時代前期以前～中世に至る時期のものである。遺物は井戸1、遺物包含層、攪乱から出土した。遺物は土器・木製品・金属製品・石製品・動物遺体がある。以下、遺物の種類ごとに説明を記す。

土器

井戸1 (第9図)

中世の瓦器・土師器と古墳時代の須恵器が出土した。須恵器は混入品と考えられる。

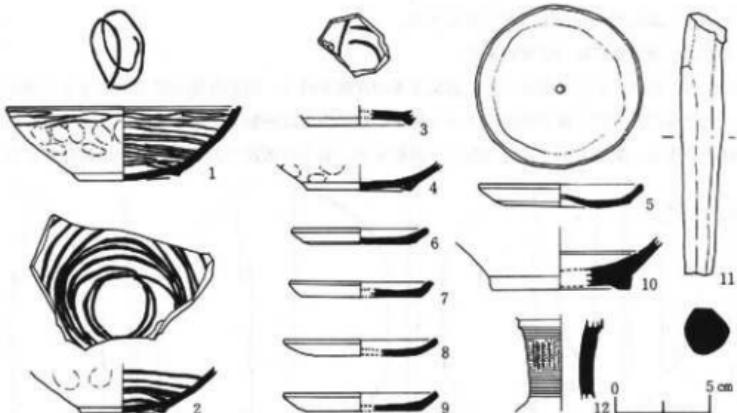
瓦器 瓦器は椀と羽釜の器種がある。

1は椀である。体部がやや浅く、口縁端部に沈線を施す。底部は断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台は低く、一部が途切れる。口縁部外面はヨコナデ調整の後、粗いヘラミガキ調整する。体部外面下半及び底部外面は指オサエする。口縁部内面はヨコナデ調整、体部内面下半と底部はナデ調整する。その後、体部内面にやや密なヘラミガキ調整する。見込みに螺旋状の暗文を施す。器壁は薄手である。胎土は緻密であり、微粒の砂粒を含む。焼成は堅緻である。内面はいぶしが悪く、灰白色を呈する。完形である。

2は椀の底部である。体部は内湾気味に立ち上がる。断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台はやや低い。底部外面は指オサエ、内面はナデ調整の後に粗いヘラミガキ調整する。見込みに螺旋状の暗文を施す。器壁はやや厚手である。胎土は精良で、微粒の砂粒を含む。焼成は堅緻である。いぶしは内外面ともに比較的良いが外面の一部にいぶしが悪い部分があり、灰褐色を呈する。

3は椀の底部片である。断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台は鋭角で、やや低い。見込みはナデ調整の後、螺旋状と考えられる暗文を施す。器壁はやや厚手である。胎土は精良で、微粒の砂粒を含む。焼成は堅緻である。いぶしは内外面ともに良い。

4は椀の底部である。体部は内湾気味に立ち上がる。断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台はやや低い。底部外面を指オサエ、内面をナデ調整する。見込みに暗文はない。胎土はやや精良で、若干の砂粒を含む。焼成は良好である。いぶしは内外面ともに悪い。内面



第9図 井戸1・攪乱出土器実測図

は暗灰色を呈するが、部分的な灰白色の斑点を持つ。外面に灰褐色を呈するが、部分的な黒褐色の斑点を持つ。

11は羽釜の脚である。脚は下に向かって細くなる。横断面が梢円形を呈する。外側にあたる部分を面取りする。表面はナデ調整する。上半部分に若干の煤が付着する。胎土はやや粗く、比較的多くの砂粒を含む。焼成は堅緻である。表面は灰褐色を呈する。

土師器 土師器は小皿の器種がある。

5は小皿である。上げ底の底部より口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は上方へつまみ上げる。口縁部外面と底部の間に明確な段を持つ。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。底部中央に焼成後に小孔を穿つ。胎土は緻密である。焼成は良好である。色調は内外面とも灰褐色を呈する。

6は小皿である。平底の底部より口縁部がやや外反しながら外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胎土は極めて緻密である。焼成は良好である。色調は内外面とも灰褐色を呈する。

7は小皿である。平底の底部より口縁部が内弯気味に立ち上がる。立ち上がりは短い。口縁端部は丸く終わる。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胎土は極めて緻密である。焼成は良好である。色調は内外面とも灰褐色を呈する。

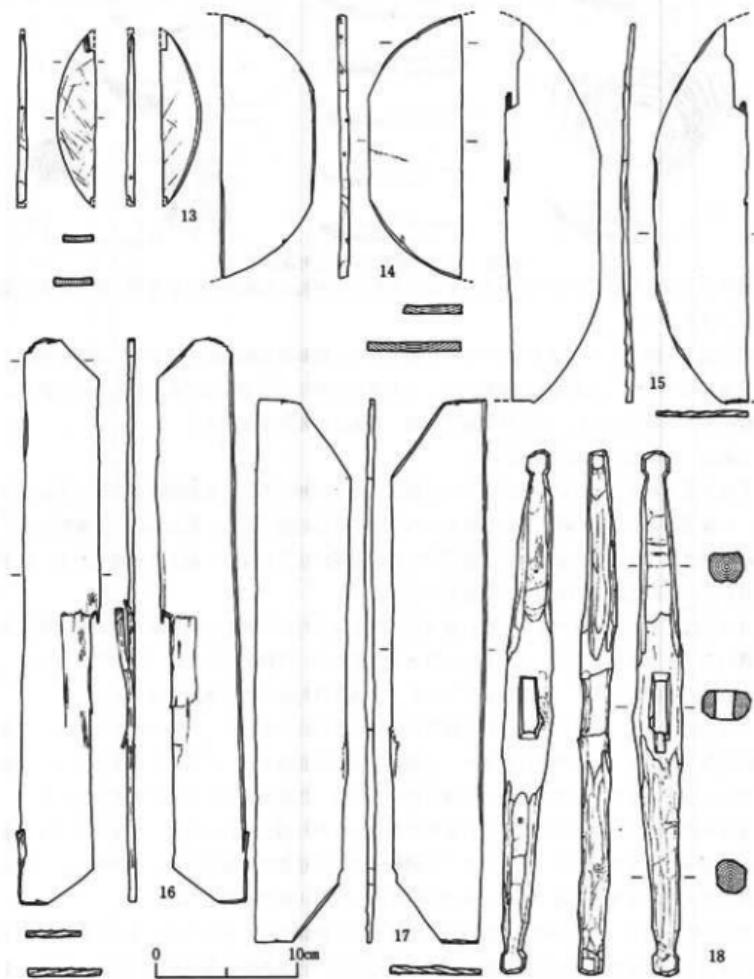
8は小皿である。平底の底部より口縁部が内弯しながら緩く立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胎土は緻密である。焼成は良好である。色調は内外面とも明灰褐色を呈する。

9は小皿である。平底の底部より口縁部が外上方に直線的に立ち上がる。口縁端部は尖り気味に終わる。口縁部外面と底部の間に明確な段を持つ。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。胎土はやや粗く、少量の砂粒を含む。焼成は良好

である。色調は内外面とも灰褐色を呈する。

須恵器 須恵器は甌の器種がある。

12は甌の頸部である。頸部上方に最低2本の沈線を持つ。頸部外面は横方向のカキメ調整をし、その後に部分的に縦方向のカキメを施す。頸部内面は回転ナデ調整する。しぶりをくわえた痕跡が残る。胴部外面上端は回転ナデ調整する。胎土は緻密であるが、若干の砂粒を含む。



第10図 井戸1出土木製品実測図

焼成は極めて堅緻である。色調は外面とも濃青灰色を呈する。

攪乱（第9図）

中世の輸入磁器が出土した。

10は白磁碗の底部である。断面形が台形を呈する高台を削り出す。底部外面は回転ヘラケズリ調整の後、回転ナデ調整する。底部内面に1条の沈線を巡らす。内面は施釉する。釉は淡乳緑色を呈する。外面の色調は灰褐色を呈する。胎土は緻密である。焼成は堅緻である。

木製品（第10・11図）

木製品は曲物容器底板、板材、用途不明有孔棒などである。これらはすべて井戸1内から出土した。以下、各製品について説明を記す。なお押図の横断面に描かれた弧は、木の年輪を模式的に表しており、木取りを示す。材は針葉樹、広葉樹を識別しているが、同定したものではなく、筆者の肉眼観察によるものである。



第11図 井戸1出土木製品実測図

13は曲物容器の底板である。組合式のものであり、板材を半円形に削り出す。側縁部に2箇所、円周部に1箇所の釘穴を持つ。板材両面に数箇所の刃物痕が認められる。円周部に7箇所の釘穴を持つ。その中の1箇所には木釘が残っている。残存長11.5cm、幅2.7cm、最大厚0.6cmを測る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

14は曲物容器の底板である。板材を半円形に削り出す。側縁部を欠損する。残存長18.5cm、残存幅6.5cm、最大厚0.6cmを測る。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

15は曲物容器の底板である。板材を半円形に削り出す。側縁部を欠損する。残存長27.0cm、残存幅6.5cm、最大厚0.5cmを測る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

16は台形に削り出した板材である。取り上げ時に一部欠損する。最大長39.5cm、最大幅5.5cm、最大厚0.5cmを測る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

17は台形に削り出した板材である。最大長37.8cm、最大幅6.5cm、最大厚0.5cmを測る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

18は用途不明の双頭有孔棒である。棒材の中央に縦4.0cm、横1.5cm、深さ2.0cmの方形の孔を穿つ。

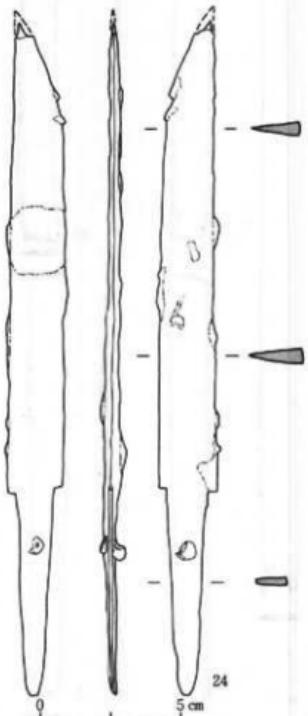
また、棒材の両小口から約2cmのところに抉りを入れ、瘤状の突起を作りだす。最大長37.0cm、最大幅3.5cm、最大厚2.0cmを測る。芯持材を棒状に削り出す。材は広葉樹と考えられる。

19は用途不明板である。片方の小口を削り出す。もう片方の小口と2側縁を欠損する。表面には、刃物痕が無数に残る。残存長18.5cm、残存幅4.0cm、最大厚0.5cmを測る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

20は用途不明の有孔板である。両側縁、両小口を欠損する。片方の側縁には等間隔に6孔の釘穴を持つ。残存長24.5cm、残存幅2.4cm、最大厚0.6cmを測る。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

21は用途不明の板材である。両側縁を削り出す。両小口は欠損する。若干の反りを持つ。残存長43.5cm、最大幅2.8cm、最大厚0.3cmを測る。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

22は用途不明の板材である。両側縁、両小口を欠損する。若干の反りを持つ。残存長18.5cm、残存幅2.5cm、最大厚0.5cmを測る。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

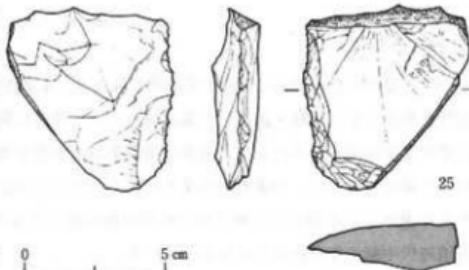


第12図 井戸1出土金属製品実測図

23は用途不明の板材である。片方の側縁を削り出す。もう片方の側縁と両小口は欠損する。若干の反りを持つ。残存長30.0cm、残存幅2.8cm、最大厚0.4cmを測る。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。

金属製品（第12図）

金属製品は小刀がある。小刀は刃先をわずかに欠損するが、ほぼ完形



25

第13図 第10層出土石製品実測図

である。刃部は背で最も厚く、刃に向かい両面から薄ぐする。横断面は二等辺三角形を呈する。刃部と基部の間には段を持つ。基部中央には柄を止める鉄製の目釘が残る。復元長24.5cm（刃部17.0cm・基部7.5cm）、最大幅2.0cm、刃部最大厚0.6cm、基部最大厚0.4cmを測る。材は鉄である。井戸1より出土した。

石製品（第13図）

石製品は搔器が出土した。搔器は三角形を呈する。2側縁には原石面を残す。1側縁には細部調整を施し、刃部を作りだす。刃部幅5.7cm、横幅5.7cm、最大厚1.7cmを測る。サヌカイト製。遺物包含層（第10層）より出土した。

動物遺体（図版12）

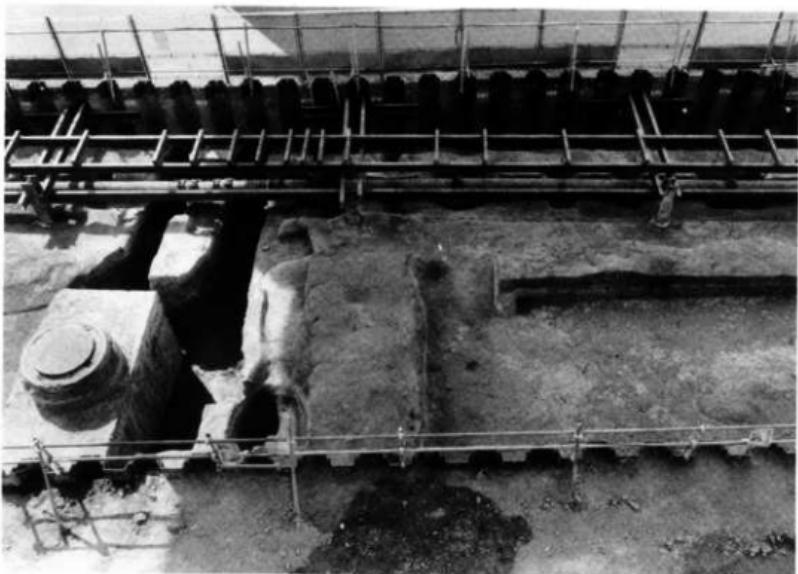
小動物の頭蓋骨3個体などが出土した。1～3は頭蓋骨である。1には下頬及び胸部の骨格の一部が伴っている。遺存状況は比較的良好、前歯の細部なども欠損はみられない。頭蓋骨の大きさは、1が長さ2.8cm、幅1.6cm、2が長さ4.1cm、幅2.2cm、3が長さ4.5cm、幅2.2cmを測る。井戸1より出土した。

IV. まとめ

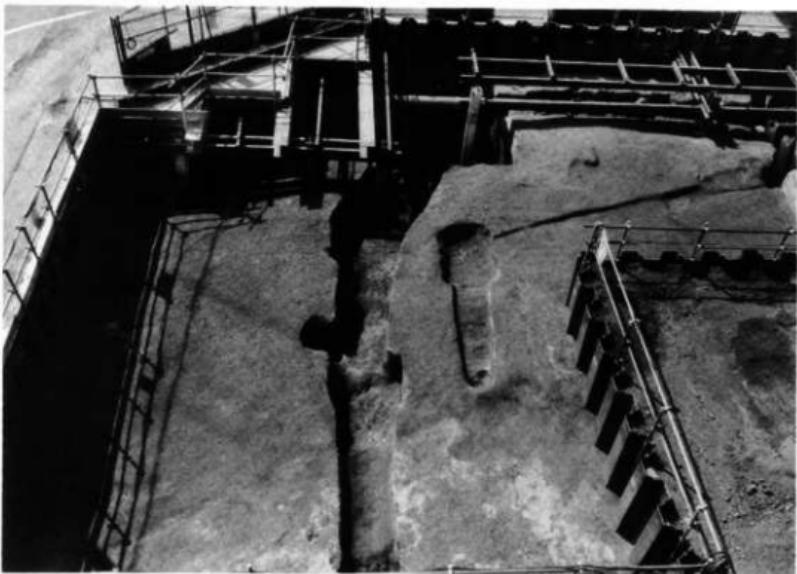
西ノ辻遺跡の発掘調査は今回で第35次を数える。本調査では縄文時代前期以前～中世の遺構・遺物を検出した。遺構・遺物とも量は少ないが、非常に興味深い資料が得られた。今回、西ノ辻遺跡第35次調査と並行して、鬼虎川遺跡第33次調査を実施した。鬼虎川遺跡は西ノ辻遺跡の西側に隣接しており、当調査の成果も踏まえたうえで知見を列記し、まとめとしたい。なお、鬼虎川遺跡第33次調査では縄文時代前期の海岸線（海食崖）、弥生時代中期の方形周溝墓群、古墳時代中期の集落跡などを検出している。

1. 縄文時代前期以前とした遺物・遺構についてまとめてみたい。遺物は第10層よりサヌカイト製の搔器が出土した。鬼虎川遺跡第33次調査では、海底面直上の円礫を多量に含む堆積層内からナイフ形石器や翼状剣片が、海底面に近い堆積層から縄文時代前期初頭の土器がそれぞれ出土していることから、縄文海進時に旧石器時代の遺物包含層が侵食を受けたものと考えられる。第10層の時代については層序・レベル等からみて、縄文時代前期以前の堆積層と考えられる。遺構については、土塗1～3を第16層上面で検出している。遺物は出土していないが、縄文時代前期以前の遺構と考えられる。
2. 中世の遺物・遺構についてまとめてみたい。中世の遺構は井戸1を検出した。井戸1の時期は出土遺物からみて13世紀後半と考えられる。今回の調査区以東（第30次調査）でも柱穴や井戸などの集落遺構がいくつか見つかっており、本来ならば井戸1以外の遺構もあった可能性がある。しかしながら、井戸1の上部も含めて、13世紀後半以後に削平を受けたものと考えられる。また、鬼虎川遺跡第33次調査では扇状地の最も末端部で南北に走る溝を1条確認しているが、平野部では明確な遺構はみられない。これらの調査結果より、中世の集落の範囲は、海岸線の東側で終わると考えられる。
3. 今回の調査では確認できなかったが、弥生時代の西ノ辻・鬼虎川遺跡について触れてみたい。西ノ辻遺跡の東部では方形周溝墓群（第7次調査・第26次調査）が谷筋の南北にまたがってみつかっている。また、前述したとおり鬼虎川遺跡の北東部に方形周溝墓群がある。今回の調査区を含めた西ノ辻遺跡の西部では、方形周溝墓はみられない。これは、西ノ辻遺跡の墓域と鬼虎川遺跡の墓域が別々のものとして存在していたか、あるいは中世以後の削平によって失われたものと考えられる。

図 版



1. A地区全景（東から）



2. B地区全景（東から）



1. A地区東壁断面



2. B地区東壁断面



1. 井戸1（東から）



2. 井戸1内木製品出土状況



1. 井戸 1 内土器（瓦器椀）出土状況



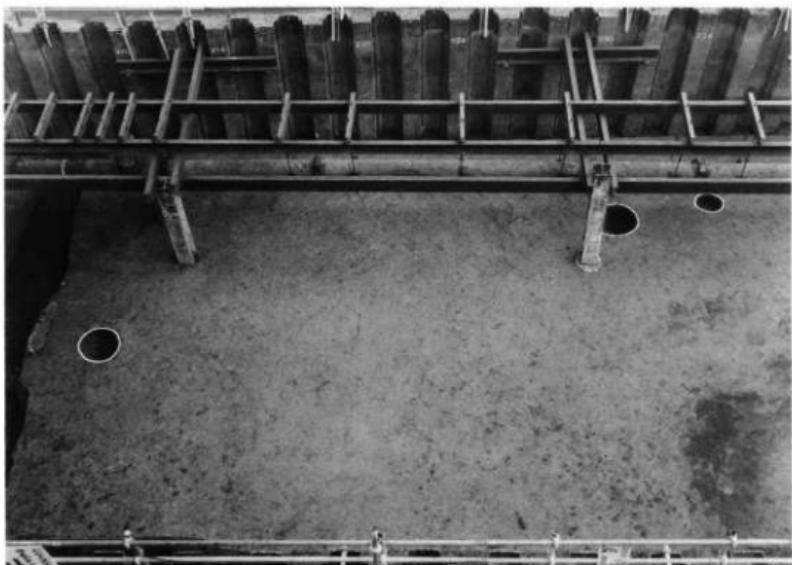
2. 井戸 1 内金属製品（小刀）出土状況



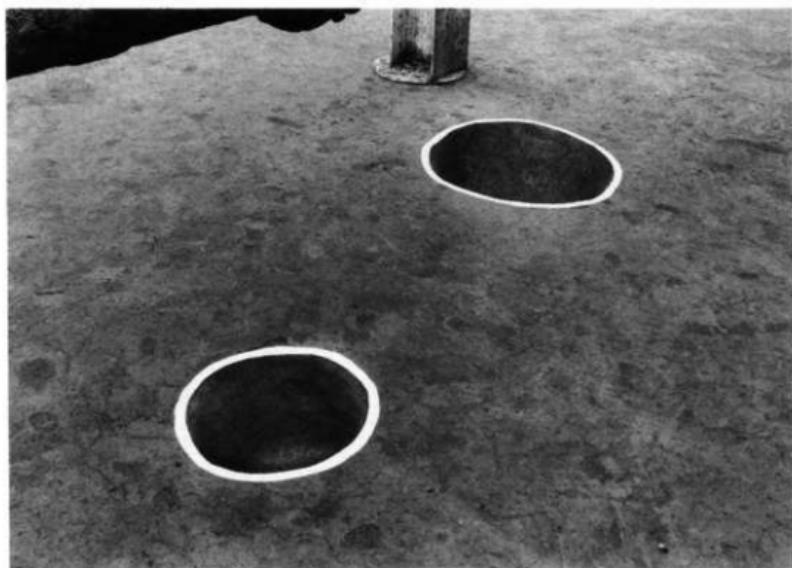
1. 井戸 1 完掘状況



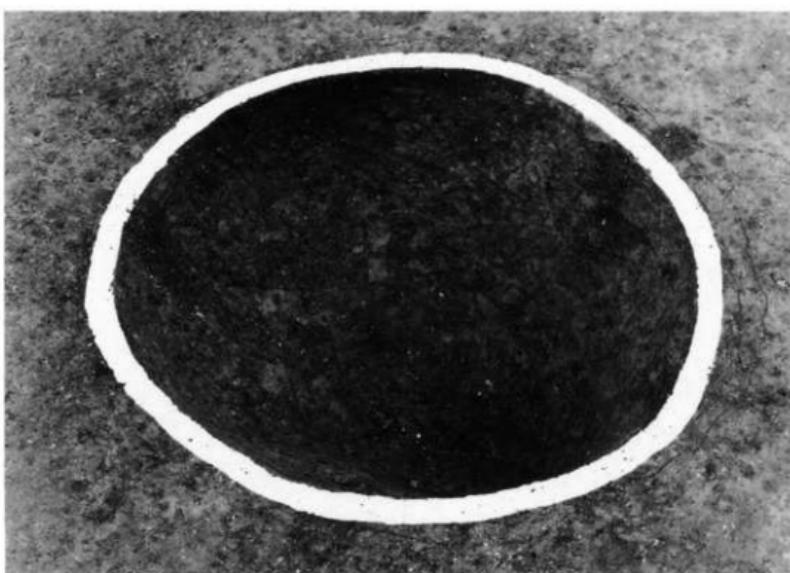
2. 第10層石製品（搔器）出土状況



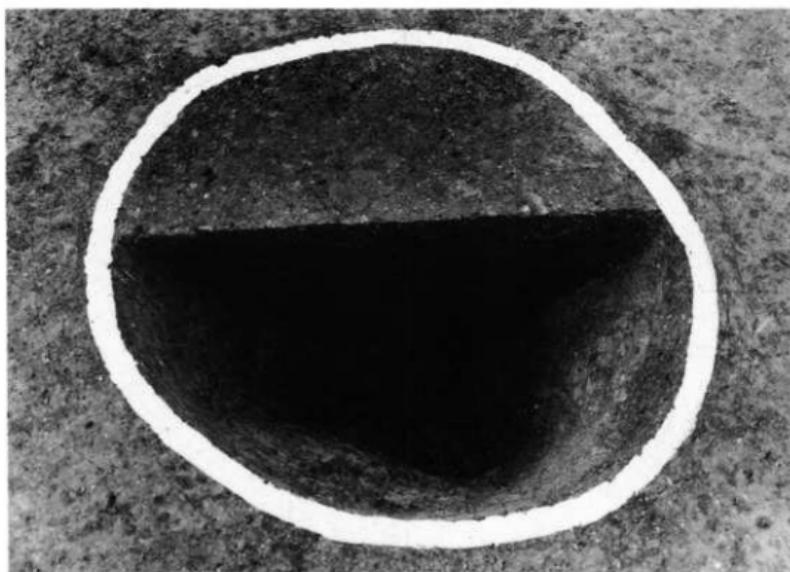
1. 土塙1～3（東から）



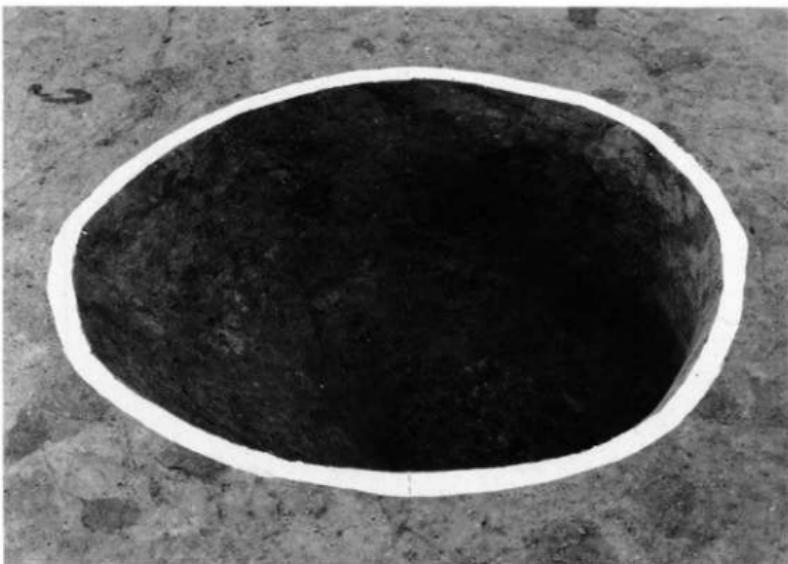
2. 土塙2・3（北から）



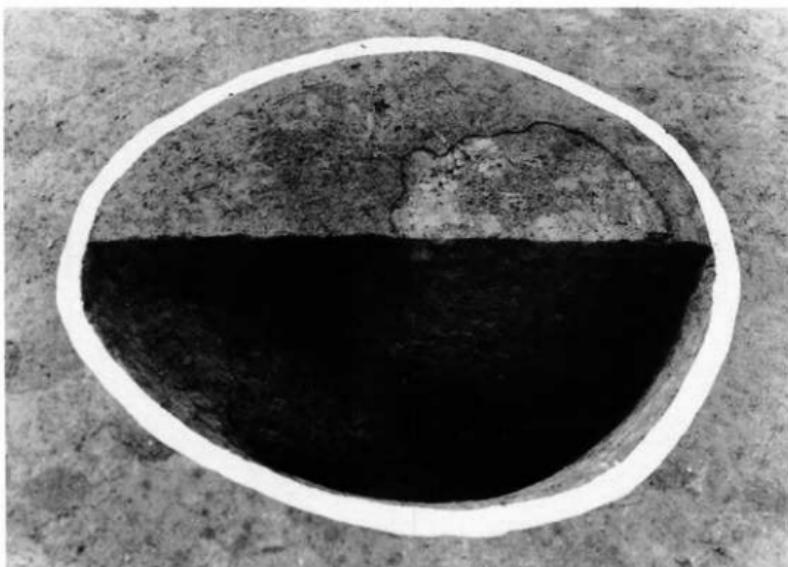
1. 土塙 1 完掘状況



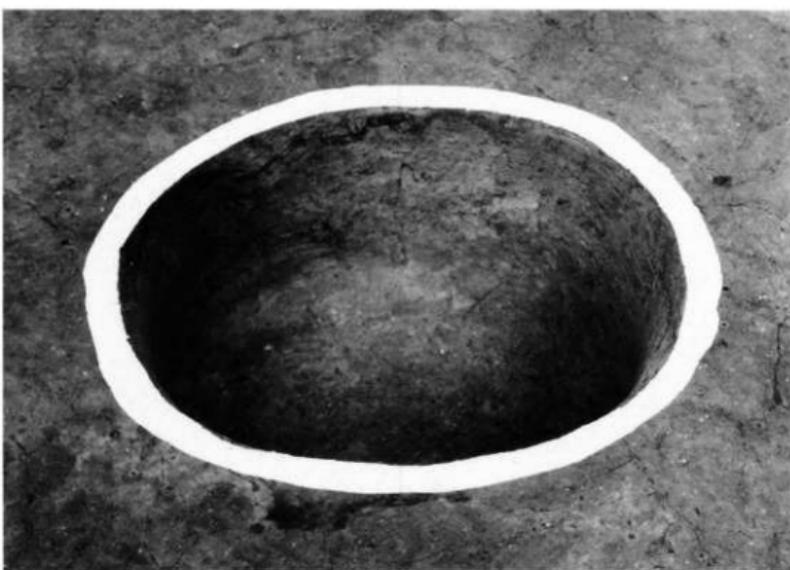
2. 土塙 1 断面



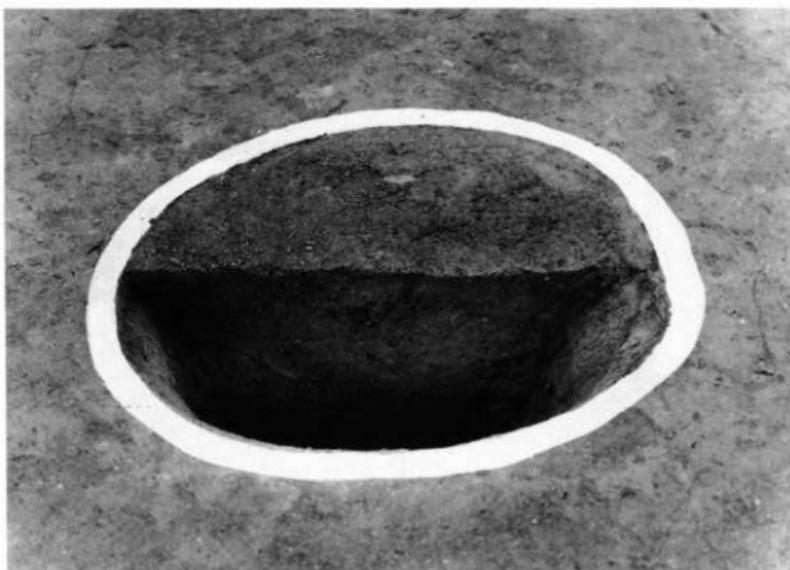
1. 土塙 2 光摺状況



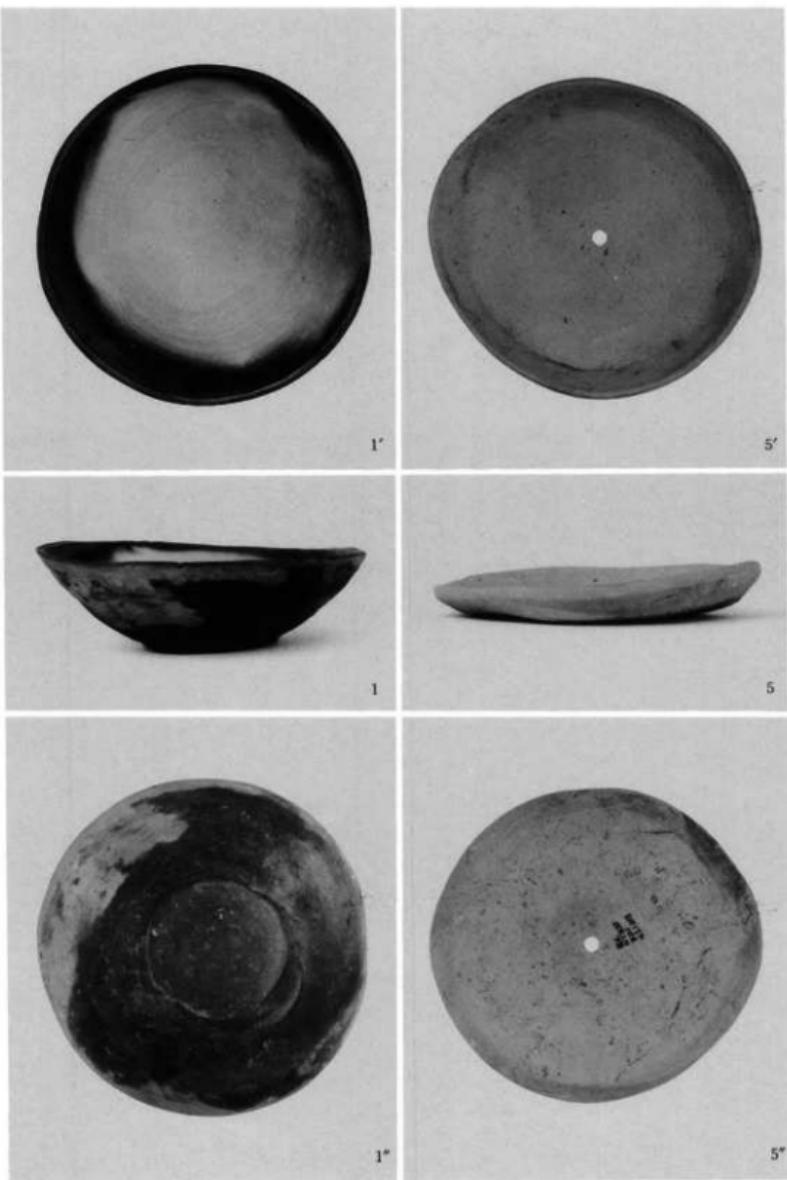
2. 土塙 2 断面



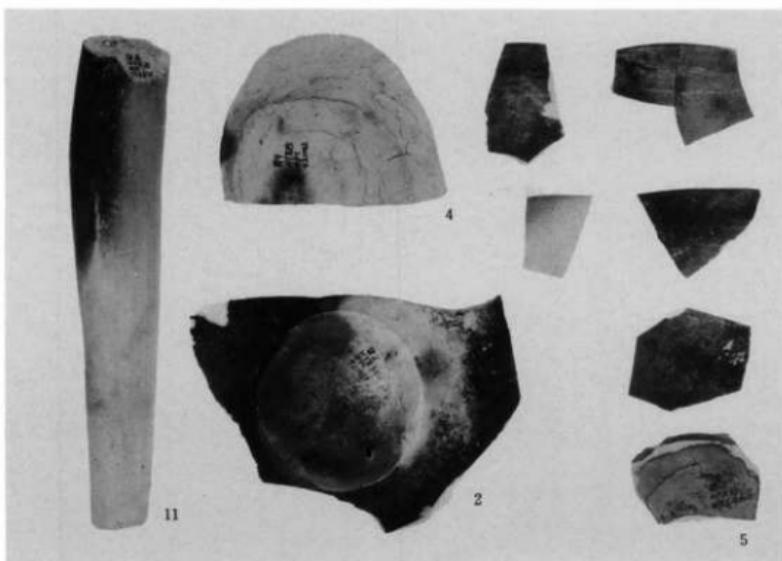
1. 土坑 3 完掘状況



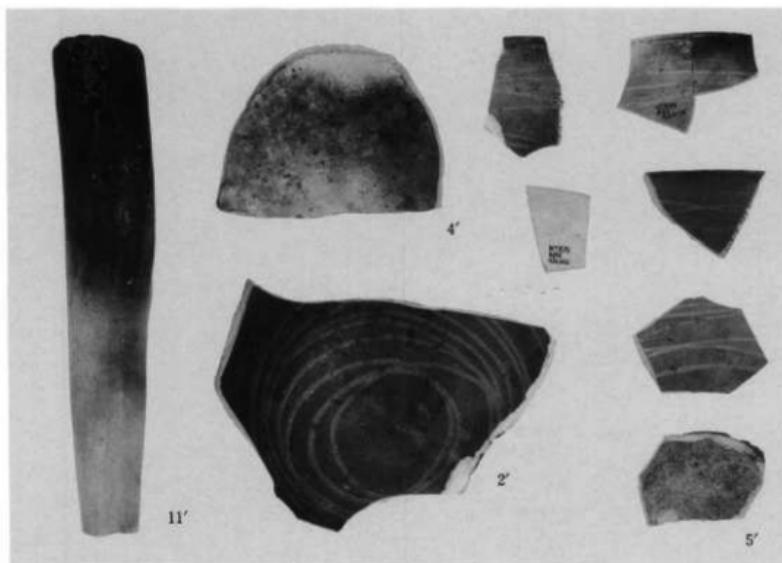
2. 土坑 3 斷面



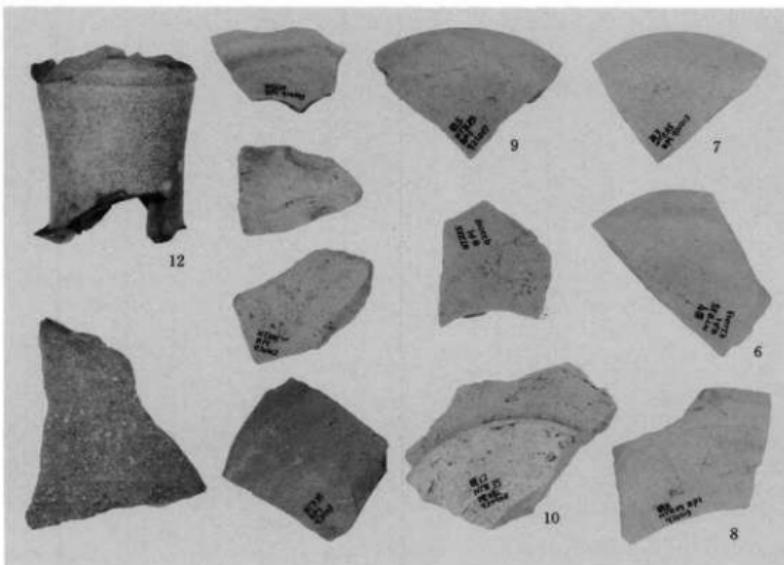
井戸1出土土器 瓦器椀、土師器小皿



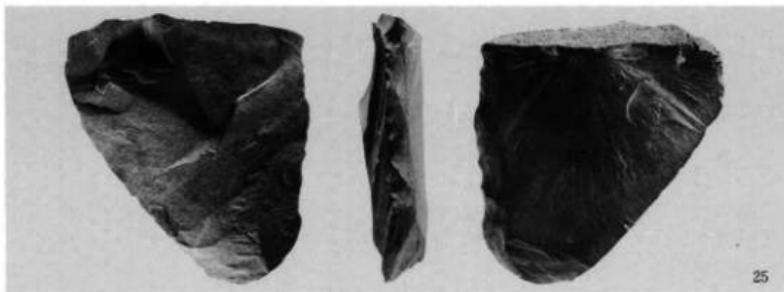
1. 井戸1出土土器 瓦器椀・羽釜（表）



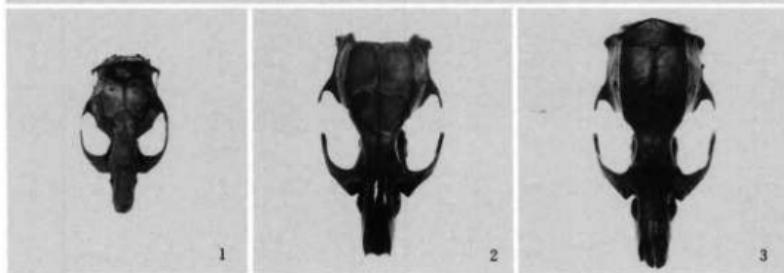
2. 井戸1出土土器 瓦器椀・羽釜（裏）



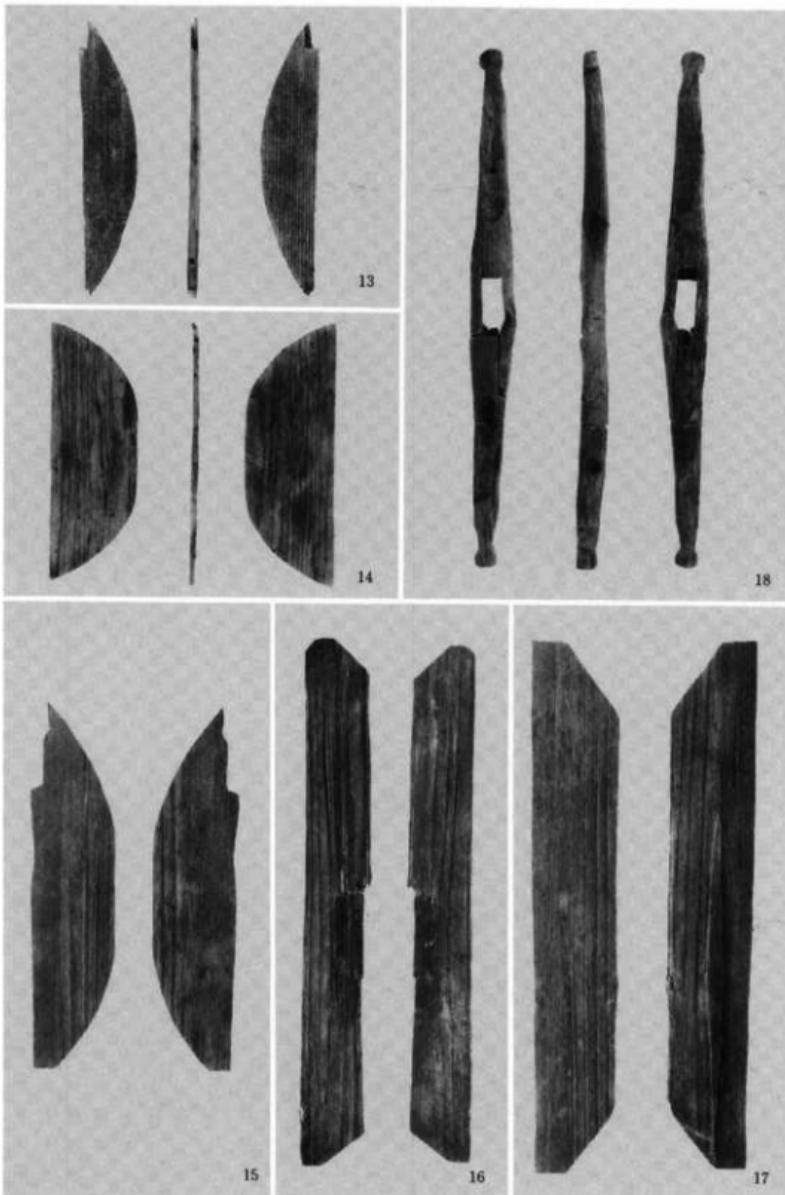
1. 井戸1出土土器 須恵器甌、土師器小皿 混乱出土土器 白磁碗



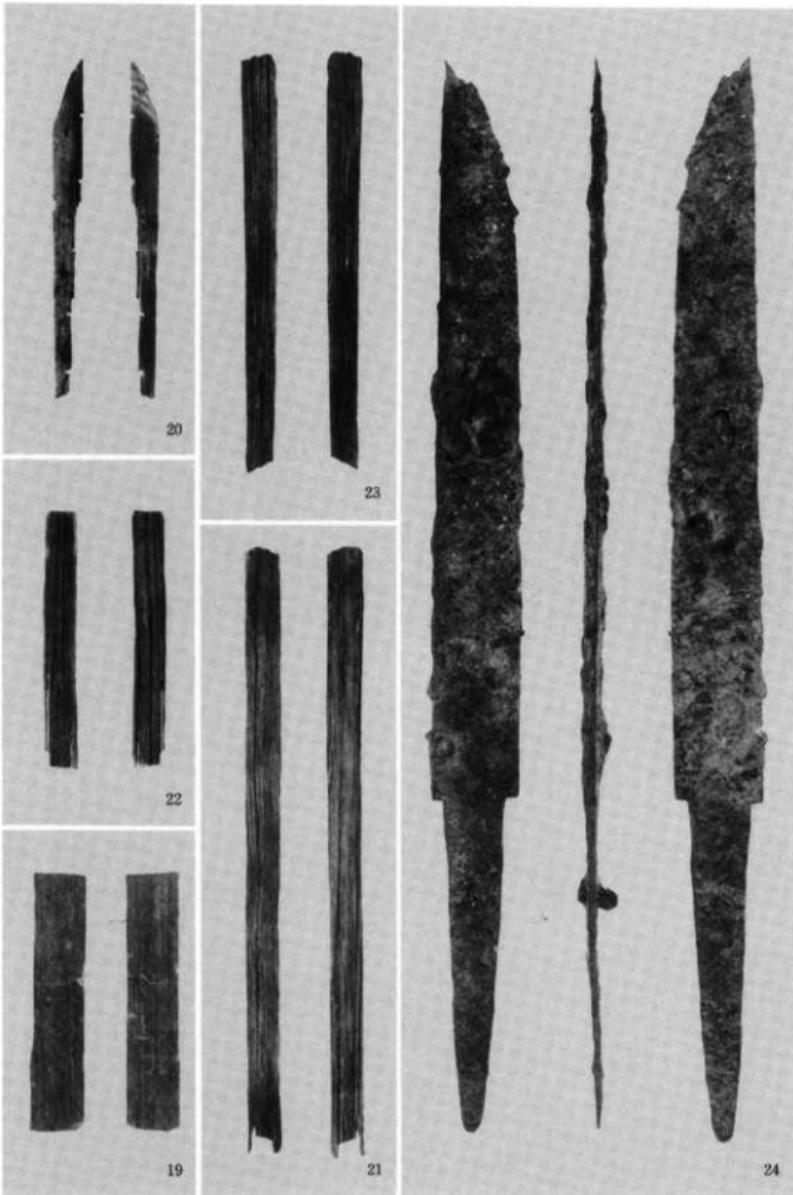
25



2. 第10層出土石製品 搗器 井戸1出土動物遺体



井戸 1 出土木製品



井戸 1 出土木製品、金属製品 小刀

西ノ辻遺跡第35次発掘調査報告

発行日 平成5年9月

発行者 財團法人 東大阪市文化財協会

印刷所 株式会社 中島弘文堂印刷所